

# 【令和5年度 自己評価結果公表シート】

学校法人直江津龍谷学園 真行寺幼稚園

## 1. 本園の教育目標

(教育目標)

「浄土真宗の精神」にのっとり、宗教的情操の豊かな人材を教化育成することを目標とする。

(教育方針)

- 1) 「仏さまをおがむ子」 たくましい豊かな心をそなえた子
- 2) 「ありがとうの言える子」 感謝と協調のできる子
- 3) 「よく聞く子」 聞く態度を身につけ、探求と創造と自立を目指す子
- 4) 「なかよくする子」 助け合うことに喜びを感じ、仲間作りにはげむ子

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

(本年度の総合教育目標)

主体性を育む (5カ年計画 2年目)

(本年度の重点目標)

「よく聞く子」 聞く態度を身につけ、探求と創造と自立を目指す子

(本年度の重点計画)

1) 「主体性」を育てる (5カ年計画2年目)

昨年度は「主体性を育てる」として取り組んできた。しかし、主体性は「育てる」ものではなく、「育む」ものであると実感。「育てる」は、教員が中心で子どもを育てるものであり、「育む」は子どもが中心で教員がサポートする感覚であるように考える。昨年度の経験と反省を活かし、また教職員間での育み方や子どもの成功や成長の共有を行い、遊びや行事を通して「遊びこめる」「夢中になれる」「もう1回やりたい」環境を整えたいと考える。

また行事の内容を見直し、より「主体性を育む」ことができるように改善する。「主体性を育む」ことには、とても時間が必要。“保育者主体、保護者優先、詰め込み過ぎ、やりっ放し的な行事”では、とても育むことが出来ないと感じる。“子ども主体、こども優先、意見を聞く余裕がある、振り返りができる行事”に3年間かけて移行する。

また、「失敗してもいい、間違ってもいい」ということと、「主体性を育む」ことは密接に関係しており、引き続き重点課題とする。“探求と創造と自立を目指す子”を育みたい。

2) 健康について

コロナ禍にあり、ここ数年はコロナ対策を重点的に行っていたため、園児の健康面について少しおろそかになっていた部分もあった。認定こども園になり、保健業務が多く加わったこともあるが、今一度、保健衛生健康について見直し、取り組むべき課題であると考えます。

3) 保育環境の設定について

子どもが安全かつやりたいことが思いっきりできるように保育環境を整えることが必要。

時代や子どもたちの変化に対応した環境にするため、本館の教室などの改修工事を今後2年の間に行う。また、動線に合わせた遊具や保育者の配置と連携が重要と考える。今あるものを活用しながら、工夫して環境設定を行いたい。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
<p>重点目標 「よく聞く子」</p> <p>失敗を成長につなげる</p>	<p>A</p>	<p>主体性を育むために、園児の思いや声を大切にした。しかし、声を出せる子は限られており、なかなか全員の思いを汲むことは難しい。発言を求めるあまり、自己中心的な声が多くなり、他人の意見や思いをないがしろにする場面もあった。</p> <p>自ら考え行動することは、なかなか目に見えにくく、主体性が見えやすい発言に頼ってしまう場面もあった。</p> <p>まずは、基本的な生活能力を身につけ、集団生活におけるルールやマナーを学び、その上で主体的に行動できるようになるのが理想である。どれも、聞く力が必要であった。</p> <p>これまでの協調性重視の教育から、主体性重視の教育へ移行途中にあり、バランスを模索する難しい時期であると感じる。</p> <p>しかしながら、教職員が真摯に取り組み、声のかけ方など様々に工夫し環境を整え、一步ずつではあるが着実にしっかりと「聞く」「聴く」ことからの「主体性」の育ちにつながっていると実感している。</p>
<p>総合目標 「主体性」を育む ＜5カ年計画 2年目＞</p>	<p>A</p>	<p>【行事】 (運動会)</p> <p>長年実施してきた競技、年長の組立体操、年中の綱引きを変更した。</p> <p>年長は、子どもとのミーティングのなかで、兄姉のいる小学校の競技をやりたいとの意見があった。段ボールなどをいかに高く積み上げるかという競技。ただ、園児には高さを出すのは非常に困難であり危険もあるので、高さに加えて長さも競う競技を実施した。いかに早く、定められた長さで高さをクリアできるのか、クラスやチームで話し合い試行錯誤しながらの有意義な競技となった。</p> <p>年中は、クラスカラーが貼られた箱やパネルを、より多く自分のクラスカラーになるようにひっくり返していくという競技を実施した。スタート場所やひっくり返す場所、順番など、随所に考え行動することが必要となる競技となった。</p> <p>長年実施してきた競技を変更することは、大きな不安や</p>

負担が伴ったが、それ以上に主体性を育む素晴らしい競技になった。

#### （おゆうぎ会）

これまで、おゆうぎ会前は、練習ばかりになり、遊びの時間やお散歩など他の活動ができない状態であった。また、お遊戯に関しても、園児の声や思いを取り入れたくてもなかなか余裕がないのが現状であった。

そこで、年長と年中は2つのプログラムを実施してきたが、今年度はそれぞれ1つのプログラムに減らし実施した。

プログラムを減らしたことにより、練習ばかりにならず、遊びやお散歩など他の活動も充実することができた。また、園児の思いや声も取り入れる時間と余裕も生まれ、お遊戯を楽しむことができた。お遊戯が好きな子は、他のクラスや学年のお遊戯も積極的に踊り楽しんでいた。

#### 【年長】

日々の生活の中で、やりたいことを子どもの意見を聞いて取り入れた。教室にある玩具で遊ぶだけでなく、工作やピアノ、ボードゲームなど様々なことを自由に楽しんだ。学年のつながりを多く持てるよう、一緒に遊んだり、制作して、他のクラスを行き来して、より多くのお友達から刺激をもらい、好きな物を見つけたり伸ばしたりする機会を設けた。

絵画なども、題材を行事などにしばらずに、好きなことや好きな場面、想像したことなど自由に表現することにより、より絵を描くことが楽しく好きになり、素晴らしい作品がたくさん生まれた。

#### 【年中】

子どもたちが安心して活動に取り組めるよう、寄り添い共感することを心がけた。行事や活動の中で、話し合っ  
て様々なことを決めることができた。

療育的な遊びを取り入れ、支援が必要な子も一緒に楽しめる環境作りに配慮した。遊びの展開が見られた。

ドッジボールなどのチーム分けの際、子どもたちに自ら分かれてもらった。どうやったら同数になるのか考えながら動いていた。積極的に人数の足りないチームへ移動する子も見られた。

#### 【年少】

子どもたちが積極的に意見を言ったり、のびのび過ごせるよう、あたたかい雰囲気での保育を心がけた。そこから「～をしたい」という声が出るようになった。また、遊びのコーナーを分けることによって、好きな遊びを選択できるようにした。自ら選択することによって、責任

		<p>感やが生まれるようになった。</p> <p>隙間時間を保育者主体で埋めることはせず、子どもたちの会話の時間を大切にすることによって、クイズやしりとりなどを楽しむ姿が見られるようになった。制作物なども、子ども主体で思いや発想を大切にすることにより、保育者の肩の荷が下り、お互いに自然体で向き合えるようになった。</p> <p>【未満児】</p> <p>子ども一人ひとりが、今何に興味をもっているのかを常に感じ取る姿勢を心がけ、どの活動でも、子どもが中心になるよう、一斉活動でも何かしらの選択ができ、考えられるように取り組んだ。</p> <p>身支度や片付けなど、ペースは違っても、小さな「できた」を一緒に喜び、やってみようと思える声かけなどをしてきた。</p>
健康について	A	<p>園児の虫歯予防のため、年長児と年中児のフッ化物洗口を開始した。水での練習期間の後、実施した。保護者の希望によりフッ化物での洗口をしない園児もある。園児はすっかり慣れて、上手に洗口できるようになった。</p> <p>コロナ禍での感染症対策の経験が、他の感染症対策にも大いに役に立っていると実感する。有効性のある換気や手洗いを慣行しているため、インフルエンザなどの感染者が発生しても園内感染は最小限で抑えられている。</p> <p>夏の猛暑時の保育については、対策が必要である。暑さ指数により判断しているが、園庭遊びは出来ず、水遊びも時間を制限して行っている。エアコンの効いた室内で遊ぶ他なく、運動量が減ってしまい心配ではあるが、命に関わる暑さであり、仕方のない面もある。</p>
保育環境の設定について	A	<p>夏季保育中に本館2階の改修工事を行った。園児の安全や保育環境の向上につながった。</p> <p>各学年、各教室で、それぞれに教職員が創意工夫して遊ぶ環境の充実に努めた。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

評価	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通理解し、実践することができた。

## 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
主体性を育む <5カ年計画 3年目>	<p>2年間取り組んで出てきた1番の課題が、遊び込む時間がないことである。主体性を育むために最も基礎となる遊びの時間をいかに確保するのかを、取り組むべき課題とする。</p> <p>その為には、行事やイベント、一日の活動を再度見直す。長年やってきたからということではなく、より子どもたちの育ちにつながるものに重きを置き、それ以外のものは簡略化や廃止をしていかなければならない。</p> <p>丸一日じっくりと遊び込むような日を設けたり、自由にいろいろな教室を行き来して、取り組んだり楽しんだりする日を設定することなどに取り組みたい。</p> <p>また、コロナ禍でなかなか出来なかった、クラスを越えた学年間の取り組みや、学年を越えた異年齢の交流などが求められている。</p> <p>行事としては、作品展について重点的に改革をする。長期的な活動にして1学期から少しずつ取り組み、運動会やお遊戯会とも連動するようなテーマ設定や作品が子どもたちから生まれることを期待する。運動会とお遊戯会については、今年度改革を進めることができたので、より進歩させたい。</p>
1歳児保育について	<p>令和6年度から1歳児保育を開始する。これまで満2歳児の保育は実施してきたが、同じ学年とはいえ、はじめての1歳児受け入れである。市内のこども園、保育園の保育見学、教室の改装、経験のある保育士の採用など、出来る限りの準備をしてきた。実際に保育を開始してあがった課題は、早急に対応改善し、園児と保護者の安心安全を心がけて実施する。</p>

## 6. 学校評議員の評価

令和6年2月17日学校関係者評価委員会（13名出席）が開催され評価いただく。

- ・目標設定、教育保育計画、実施、反省、改善の循環がよく出来ていると感じる。
- ・運動会やお遊戯会などを見せていただき、「主体性を育む」成果が着実に出てきている。
- ・火災や災害に対する備えや訓練が日頃からよくされていると感じる。

## 7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

以 上